

第 310 回昭和の森自然観察会

3 時間コース・秋の昭和の森をぐるっと一回り

木嶋惠子（睦沢町）

日 時：2017 年 10 月 8 日（日）13 時～16 時 天気：晴れ

参加者：27 名（大人 23 名、子ども 4 名） 指導員 12 名

担当指導員：伊藤道男・木嶋惠子

昨年・一昨年と雨天のため中止だった「秋の 3 時間コース」、今年は爽やかな好天に恵まれました。拾った木の実は、ゴール後台紙に貼り付けることや、分水嶺のこの公園から流れ出る水が集まる 3 つの川の位置関係等を確認後、2 グループで出発しました。最初は、料金所近くの大きなスダジイの下での「シイの実」拾い。シルバー層と思われる方々が、懐かしそうに拾っていました。次は、あすみが丘東に隣接した林縁、ようやく色着き始めたムラサキシキブや鮮やかなコントラストで目立つゴンズイやクサギの実が待っていました。

フォレストビレッジで休憩後、キャンプ場から標高差 33m の下タ田池へ下る途中、孟宗竹が杉林へ進出し勢力を拡大している様子を見ました。溝腐れ病の杉へは更なるダメージのようです。池添いの道には、ドングリ（コナラとシラカシ）が沢山落ちていました。雑木林には美しい赤い実のガマズミや産卵中のオオカマキリが見られ、大感激。子ども達は、いつでも虫が大好きです。普段はあまり歩くことのない「萩のみち」は長い登り坂。右の崖下に小中川の流れる音、ここが公園の端っこだと実感できました。

大きなトチの実を拾った後は、展望台へ。ここは、千葉市最高地点（標高 101m）、眼下に小中池、その向こうに圏央道と九十九里平野、更に向こうにはぐるっと太平洋、いつ見ても雄大な景色です。霞んでいることが多い水平線が、はっきり見えたのは、ラッキーでした。その後は、辰ヶ台遺跡から、最後のドングリ拾いになったマテバシイの樹下をまわりカツラの巨木へ。特有の甘い香りは、「ほのかに」という程度でした。ゴール後、東屋で配布した台紙に拾った実を貼り付け、「木の実ずかん」作りを楽しんだ人達もいました。歩いた所々で様々な「秋」に出会い、楽しみました。特に、子ども達は、ビニール袋いっぱいのドングリに満足げでした。また、高低差が大きい公園を体験した観察会にもなりました。

